

キウイフルーツの新しい台木開発試験

近年、キウイフルーツ栽培園ではキウイフルーツ根腐病（以下、根腐病）による枯死樹の発生が問題となっている。根腐病はピシウム菌による土壌病害であるが、現状では有効な防除薬剤は無く、その対策が求められている。そこで、果樹研究センターでは根腐病に強いキウイフルーツの新しい台木として「シマサルナシ」を選抜し、農林水産省の「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」により、機能性台木の開発試験に取り組んでいるところである。



写真1 根腐病で枯死したキウイフルーツ樹

ヘイワードへの適応性（現地ほ場）

現在、今治産地育成室、JA 越智今治の協力を得て、根腐病発生ほ場において、シマサルナシ台木キウイフルーツの有効性を検証している。試験には、シマサルナシ台木と慣行台木の‘ヘイワード’を各3本ずつ供試し、その生育を比較したところ、慣行台木樹では翌年の春までに全ての供試樹が根腐病により枯死したのに対し、シマサルナシ台木樹では根腐病による枯死は認められなかった。ただし、シマサルナシ台木樹についても排水不良が原因と思われる生育遅延が認められることから、シマサルナシ台木でも排水対策は必要と考えられた。

主要品種の適応性（果樹研究センターほ場）
当センター内のシマサルナシ台木‘Hort16A’、‘レインボーレッド’、‘ヘイワード’の生育調査中であるが、Hort16A’の慣行台木では根腐病の感染により新梢生育が劣っているのに対して、シマサルナシ台木では健全に生育しており樹冠拡大も早い傾向を示している（写真2）。同様に‘ヘイワード’についてもシマサルナシ台木の生育が優れる傾向を示しています。逆に‘レインボーレッド’では慣行台木の生育が優れており、品種間差が見られています。

表 ‘Hort16A’ 台木幹周、新梢長（2012）

試験区	台木幹周 (cm)	総新梢長 (cm)
シマサルナシ	11.2	2,420
慣行	9.8	1,538



写真2 シマサルナシ台木 ‘Hort16A’

これまでの結果から、根腐病対策としてシマサルナシ台木の有効性が認められつつありますが、一方で排水不良園での生育遅延や品種間差などの課題も分かってきました。今後も産地育成室やJAと連携し、シマサルナシ台木キウイフルーツの普及に向けて、その栽培特性を明らかにしたいと考えている。

（落葉班 主任研究員 宮田信輝）